

学道一如

発行 高校
小樽双葉通
生徒会通信
2023年12月8日
第50号



道民の安全守りたい 北海道警察 3年3組 竹原大貴くん

5歳の頃から警察官に憧れ、念願叶い北海道警察に合格した竹原大貴くん。具体的に目指している目標がある。

職務質問のプロを目指す

小学校3年生の頃、「警察24時」という番組を見ていた。職務質問のプロである函館の警察官のことが取り上げられ、「悪いやつは絶対捕まえる」という情熱に強く惹かれ、本気で警察官になりたいと想った。

将来、自動車警邏隊に所属し、職務質問の指導員になれるように研鑽したいと考えている。



3年3組 竹原大貴くん
担任 山田 寛 先生

問題集を8周、面接10回練習

竹原くんは生徒会長だったので、学校祭が終わるまで受験勉強もままならなかった。本格的に勉強を始めたのは夏休みからだ。「北海道の公務員試験問題集(警察官B)」を8周練習した。「実際の試験に近い問題が出ていた。」

1次試験に合格して、面接と実技試験の準備を始めた。警察官の面接試験に詳しい山内先生に2回、小樽警察署で2回、他の先生方にもお願いし、合計10回面接練習した。「警察官の面接試験は特殊なので、入室方法から応答の内容に至るまで情報収集する必要があります。」

体力テストはバーピーテスト、腕立て伏せ、握力、反復横跳びで、中村先生に指導して頂いた。

小さい頃から憧れていた職業に就くにあたり、「道民の安心と安全を守り、犯罪を未然に防げるよう日々全力で努力したい」と語っている。

小樽切り絵カルタ③ (さ～す)



「医療費無償化の拡大を望む」 税の作文で長谷川葵泉さん表彰



長谷川葵泉さんと税務署長

11月15日、市内で「税に関する高校生の作文」の表彰式と朗読会が開催され、小樽税務署長賞を受賞した1年2組の長谷川葵泉さんが出席し、88点から選ばれた作文「妹に気付かされたこと」を読み上げた。
妹が小学生の頃、札幌の病院を受診したが、医療無償化の対象であった。そこで医療費は税金で賄われていることに気付き、税金は自分たちの生活に関係していることがわかった、という内容だ。「更に中学生も無償化なので病院に行くのを控える人も」と語る。
中学生の時も税の作文があった。今回は書き方や構成を研究して臨み、思いがけない賞を頂いたと長谷川さんは喜んでいる。

さくら咲き つつじも香る 小樽公園

明治26年に設置され、花園公園とも呼ばれる。桜の時期には花見、秋には栗拾いの人々で賑わう。春先には藤やツツジが公園を彩る。公園内には体育施設、また市民会館、公会堂、図書館が隣接し、市の中心地だ。

芝青く 白球追えり 背番号

小樽に初めて野球チームが出来たのは明治40年頃。大正時代には社会人チームが、昭和2年には小樽野球協会が設立され、「樽協」の名で親しまれた。昭和23年に建設された桜ヶ丘球場で今日も試合を楽しむ市民の姿が見られる。

職人坂 今に伝わる 匠わざ

北海道開拓の玄関口であった小樽には多様な製造業がさかえ、多くの職人が腕をふるった。寿司屋通りから水天宮前を抜け入船町に至る坂は職人坂と呼ばれ、職人たち(塗師、張り師、彫り師、等)の仕事場が並んでいた。

涼やかに 水の階段 水源地

小樽の水はおいしいと評判だ。水源となる川の周辺には手つかずの自然が残っている。中でも奥沢ダムから流れる水を通す「階段式溢流路」は水すだれの涼しげな姿と音で訪れる者の心を和ませてくれる。

寿司自慢 百をも越える のれんあり

小樽の寿司の始まりは一説によると明治41年、浅草の蛇の目寿司で修行した加藤秋太郎が花園に開いた料理店「蛇の目」だという。以降、新鮮なネタと職人の技を支える小樽の寿司の人気は衰えることがない。